

乳牛への暑さ対策

乳牛への暑さ対策が必要な季節となっております。

乳牛の適温は一般に、4〜20℃といわれ、21℃以上になると乳量が減少し始めるといわれています。また、同じ気温でも湿度が高いほど暑熱ストレスを受けやすく、ストレスを受けると免疫力が低下し、乳房炎などの疾病が増加したりします。繁殖についても、発情の微弱化、受胎率の低下といった悪影響をおよぼします。

1. 暑熱ストレスによる乳牛の行動変化

・夏期間には、表1のような行動変化に注意して観察を行います。パンティングや反すう行動の減少等、明確な兆候が見られる場合は、早急に施設や栄養管理の改善対策を講じましょう。

表1 暑熱ストレスにより乳牛行動の変化

- ✓ **パンティング**：肩を揺らすような浅く速い呼吸（おおよそ80回/分以上）
- ✓ 寝ない牛が増える
- ✓ 尾を振る牛が増える
- ✓ 反すう行動が減少
- ✓ 日陰や水槽、換気扇の下、水たまりに群がる

2. 換気の徹底と牛舎内の温度をあげないために

・窓や扉を外し、牛舎の開口部を最大にしましょう（写真1）。
・送風機で牛舎内に空気の流れを作ります。



写真1 牛舎の開口部を最大に

3. 日差しをさえぎる

・すだれや寒冷紗などを使い、飼槽や牛床に直射日光が入らないようにしましょう。
・放牧時には、日差しから避難できる庇陰林（日陰）のある草地を利用しましょう。

4. 新鮮な水を十分に

・温度の上昇とともに飲水量が増加するので十分な給水量を確保する。水中の飼料片も腐敗しや



写真2 新鮮な水を十分に

すいのでウォーターカップ・水槽の清掃もこまめに行いましょう（写真2）。

5. 乾物摂取量をも高める工夫

・エサの掃き寄せ回数を増やす。特に、涼しい時間帯での掃き寄せは効果的です。

6. ミネラル・ビタミンの補給

・暑熱時には発汗による損失が多く、要求量が高まります。またエサの摂取量も低下するためリンカル、ビタミンを2〜3割増給することが必要です。
・TMRの場合、バッファーとして重曹を1頭当たり100〜150グラムに増量しましょう。